

・インター・ン制度

各界の動向をさぐる

毎年春秋の二回開催される全国医学部長会議で、イ制度が問題になったのは、昭和三十六年の秋からである。谷川本学前医学部長（現本学長）が、イ制度の停止を提案したことから始まる。実際には議論が進められたのは、その翌年の春の会議からである。

この時、廃止の理由として挙げられたのは、本紙十四号の特集「低迷するイ制度」に掲載したことに過ぎない。種々の欠陥や過誤の下で行なわれている。改善運動が、各方面で行なわれて以来十数年を経ているが、実質的な改善は皆無に近い。この制度の主な欠陥は、イ生の生活保障の絶無と身分制度の不確立、指導体制の不明確とその設置の不充分、それ

インター・ン。その存在は、法律的にはまったくあいまいなものである。国家試験受験資格として、医学部卒業者に要求されているものの、学制の一部として文部省の法令による裏づけはなく、厚生省の管轄にある。身分保障が全くなく、経済的な裏づけもない。また指導体制の不備、重んだがたでのイ生のアルバイト就労、これらの諸矛盾が生むいろいろな弊害など、本紙十四号で「低迷するインター・ン制度」と題し、特集を試みたが、この動きが活発になって、改善運動に盛り上りをみせて来た。

全国医学部長会議での廃止を決議するに至る経過とその改善策、日本医師会の見解、特に武見会長の医学教育制度改革に対する大きな抱負、医学部の改善運動の経過とこれからの方策、厚生省や文部省の見解と対策、最後に、本学における対策などを調べてみた。この改善運動の壁になるのは、各界それぞれ独自の動きはあるが、医学教育制度の不備な点であるようだ。理想的に運営されるならば、医師養成上、非常に良い制度であることは論をまたないが、現実はきびしく、種々の過誤や欠陥の下で行なわれている。厚生省も、この改善運動に積極的に加わる意向のようであり、長年の懸案であった改善の動きが、わずかながらもみえて来た。この特集が、これからの運動の一助ともなれば幸いである。

教育内容の充実を

最終的には廃止

学長 部議

矛盾打開へ踏だす

毎年春秋の二回開催される全国医学部長会議で、イ制度が問題になつたのは、昭和三十六年の秋からである。谷川本学前医学部長（現本学長）が、イ制度の停止を提案したことから始まる。実際には議論が進められたのは、その翌年の春の会議からである。

この時、廃止の理由として挙げられたのは、本紙十四号の特集「低迷するイ制度」に掲載したことによる。すなわち、この制度は、必ずしも、理想的な改

正しく行なわれるなら、医師養成

は、必ずしも、理想的な改

正しく行なわれるなら、医師養成

